

災害現場探査 頼もしい味方

御嵩町と相互連携協定を結ぶ「キャリア技研」(名古屋市中村区)は、災害探査用のヘリコプター形ロボットを改良し19日、町内で実証実験を行った。衛星利用測位システム(GPS)を使い、誰でも手軽に操縦できるようにしたのが特徴。
(斉藤明彦)

御嵩と連携の「キャリア技研」



GPSを搭載して操縦が簡単になった災害探査ヘリコプター形ロボット。御嵩町次月で

ヘリコプター形ロボット実証実験

同社は二〇〇八年に災害探査の飛行ロボットを開発した。長さは一・一・五メートル、前後で重さは約五キログラム。市販のビデオカメラを搭載し、災害現場状況が無線でパソコン画面にリアルタイムで映し出せる。

GPSで制御されるた

め、風に流されずに滞空することが可能になり、素人でも扱いやすくなった。理論上の誤差は水平方向で一・五メートル、垂直方向は一・五メートルという。

飛行中の振動を抑えることとで三次元カメラを載せて立体的な分析もしやすくなった。無線が届かなくなるのと飛び立った地点に自動的に戻ってくる設計になった。

いる。

拡声器を取り付ければ、

携帯電話を介して孤立した被災者へのアナウンス

も可能。十キログラム程度の負荷な

ら救援物資も運べる。富

田茂社長は「土砂ダムなど

の危険地域を把握する上で

力を発揮できる」と話し

た。

GPS制御で操縦

3次元カメラ載せ
立体的分析OK